

中小企業景況調査報告書

令和8年 1月～ 3月期 実績
 令和8年 4月～ 6月期 見通し






鹿児島県商工会連合会

(令和8年4月発行)

この調査は、商工会地域の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速・的確に収集して、全国商工会連合会と連携し、全国一斉に実施しているものです。

























この報告書の中で、用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	---	---	---	--

- 調査対象期間 令和8年1月～3月期を対象とし、調査時点は令和8年3月1日とした。
令和8年4月～6月期は予測値となる。
- 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
- 調査対象商工会 かごしま市・南九州市・薩摩川内市・長島町・伊佐市・始良市・霧島市
志布志市・大崎町・垂水市・東串良町・西之表市・龍郷町・徳之島町
- 回答企業 対象企業 208企業
製造業：41企業 建設業：30企業 小売業：61企業 サービス業：76企業

県内産業別業況DI

	製造業	建設業	小売業	サービス業
7年 1月～3月期	 ▲18.6	 10.4	 ▲13.8	 ▲26.0
7年 4月～6月期	 ▲12.5	 16.6	 ▲23.3	 ▲22.4
7年 7月～9月期	 ▲31.7	 20.0	 ▲37.7	 ▲15.8
7年 10月～12月期	 ▲21.9	 10.0	 ▲39.3	 ▲21.6
8年 1月～3月期	 ▲14.7	 16.6	 ▲40.0	 ▲11.8
来期見通し(4～6月期)	 ▲12.2	 ▲6.7	 ▲36.7	 ▲17.3

総合(業況)

前年同期(令和7年1月～3月期)と比較した今期(令和8年1月～3月期)の業況は、製造業▲14.7(前年同期比3.9ポイント改善)、建設業16.6(前年同期比6.2ポイント改善)、小売業▲40.0(前年同期比26.2ポイント悪化)、サービス業▲11.8(前年同期比14.2ポイント改善)となった。

また前期(令和7年10月～12月期)と比較すると、製造業7.2ポイント改善、建設業6.6ポイント改善、小売業0.7ポイント悪化、サービス業9.8ポイント改善となった。今期については、ガソリン暫定税率廃止によるガソリン単価の下落が物流コスト減に繋がり、物価の下落に期待したが、物価は上昇したまま。しかし前期と比較すると売上額では改善・横ばいの状態である。

なお、来期(令和8年4月～6月期)の見通し(DI)は、今期と比較すると、製造業2.5ポイント、小売業3.3ポイント改善の見通しとなるものの、建設業23.3ポイント、サービス業5.5ポイント悪化の見通しである。中東情勢悪化によりエネルギー安全保障の観点から大きな影響も懸念され、4月からの値上げラッシュに加え、さらなる原材料価格の上昇に拍車がかかると思われ、中小企業・小規模事業者においても益々経営状況の厳しい状況が長引くと思われる。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 41 企業

調査対象企業内訳：食料品(20)、飲料・飼料・たばこ(6)、繊維工業(1)、衣類・その他繊維製品(1)、一般機械器具(2)、家具・装備品(1)、木材・木製品(1)、プラスチック製品(1)、印刷・同関連(3)、金属製品(2)、窯業・土石製品(1)、その他(2)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
7年1月～3月期		2.3		▲23.3		▲11.9		▲18.6
7年4月～6月期		▲2.4		▲31.0		▲2.4		▲12.5
7年7月～9月期		▲21.9		▲43.9		▲19.6		▲31.7
7年10月～12月期		▲17.1		▲26.8		▲10.0		▲21.9
8年1月～3月期		▲4.9		▲17.1		▲7.3		▲14.7
来期見通し(4～6月期)		▲2.5		▲9.7		2.4		▲12.2

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・コロナ禍以降、焼酎に対する消費者離れが進行している。様々な物が値上げされている中で、アルコール類を買うことが後回しにされていると感じる。(酒類製造業)
- ・包装価格や原材料価格の高騰の影響を受けている。(調味料製造業)
- ・行政からの見積もりは大変多いが、利益が大変少なく手間ばかりかかり、プラスになれない。(印刷業)

経営上の問題点

第1位 原材料価格の上昇	35.3%	(前期比 -10.4)
第2位 需要の停滞	14.7%	(前期比 +0.4)

【建設業】 有効回答数 30 企業

調査対象企業内訳：総合工事業(22)、職別工事業(4)、設備工事業(4)

	完成工事額		採算		資金繰り		業況	
7年1月～3月期		17.2		▲20.7		6.9		10.4
7年4月～6月期		24.2		▲10.3		10.0		16.6
7年7月～9月期		20.0		0.0		23.4		20.0
7年10月～12月期		16.6		0.0		16.6		10.0
8年1月～3月期		20.0		▲13.3		6.6		16.6
来期見通し(4～6月期)		0.0		▲20.0		▲3.3		▲6.7

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・昨年8月豪雨災害の新規復旧工事発注は多いが、若い担い手不足や他社からの引き抜きで中堅層の転職離職が深刻化している。内部留保をせず働き方改革を向上させるため、新規設備投資や賞与で利益還元を図っている。(一般土木建築業)
- ・田舎で同業者の減少により、あらゆる困りごとが増加してきているが、人手が足りない。環境に関する仕事は少しずつ増加。(建設リフォーム工事業)
- ・集客受注の引き合いは旺盛であり、追いつかない部分がある。人材が不足しており、仕事はあっても売上が伸ばしにくい状況。工事内容も新築より改修相談が増えてきているが売上高はあがりにくい。利益確保が課題である。(一般土木建築業)

経営上の問題点

第1位 従業員の確保難	29.6%	(前期比 0.0)
第1位 材料価格の上昇	29.6%	(前期比 -3.7)
第3位 人件費の増加	18.5%	(前期比 +11.1)

【小売業】 有効回答数 61 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(29)、各種商品(7)、織物・衣服・身の回り品(6)、家具・建具(3)、
自動車・自転車小売業(1)、その他(15)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
7年1月～3月期		▲20.7		▲24.1		▲10.4		▲13.8
7年4月～6月期		▲16.4		▲30.0		▲14.7		▲23.3
7年7月～9月期		▲29.5		▲41.0		▲29.5		▲37.7
7年10月～12月期		▲39.4		▲47.6		▲31.7		▲39.3
8年1月～3月期		▲37.7		▲40.9		▲31.7		▲40.0
来期見通(4～6月期)		▲31.2		▲35.0		▲25.4		▲36.7

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・地区ごとの競争が激しくなっている。他地区の低価格競争が自地区に影響が出てくる恐れが生じやすい。
(ガソリンスタンド)
- ・仕入先の業者が廃業等で減ってきており、従来通りの商品をそろえることが難しくなっている。
(酒類小売業)
- ・アフターコロナの借金返済でキャッシュフローが不足しており経営状況を圧迫している。仕入コストの上昇で利益率は低下したままで追い打ちをかけられている状況。
(各種商品小売業)

経営上の問題点

第1位 仕入単価の上昇	22.4%	(前期比 -2.1)
第2位 大型店・中型店の進出による競争の激化	14.3%	(前期比 +8.6)
第3位 需要の停滞	12.2%	(前期比 +0.9)
第3位 購買力の他地域への流出	12.2%	(前期比 -1.0)

【サービス業】 有効回答数 76 企業

調査対象企業内訳：洗濯・理美容業(19)、飲食店(22)、自動車整備業(12)、宿泊業(8)、
運送業(1)、その他(14)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
7年1月～3月期		▲16.9		▲32.5		▲18.5		▲26.0
7年4月～6月期		▲17.3		▲26.3		▲14.7		▲22.4
7年7月～9月期		▲15.8		▲22.3		▲18.6		▲15.8
7年10月～12月期		▲16.2		▲25.7		▲9.6		▲21.6
8年1月～3月期		▲9.2		▲26.7		▲5.4		▲11.8
来期見通(4～6月期)		▲16.0		▲21.6		▲8.1		▲17.3

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・高齢化と後継者不在により、事業継続自体が危ぶまれている。食料品の消費税ゼロが実現すれば更なる外食需要の低下が予想される。
(食堂・レストラン業)
- ・地域顧客の高齢化が進み、年々客数が減少している状況にあり、また、競合他社の進出等もあって厳しい経営環境にある。
(美容業)
- ・人手不足のため、従業員の給料増加による利益が出て法人税など税金の割合が高く従業員に還元されない。
(一般旅客自動車運送業)

経営上の問題点

第1位 材料等仕入単価の上昇	33.3%	(前期比 +4.3)
第2位 需要の停滞	17.5%	(前期比 +7.8)
第3位 店舗施設の狭隘・老朽化	11.1%	(前期比 -6.6)
第3位 利用者ニーズの変化	11.1%	(前期比 -8.3)

全産業【鹿児島県】

令和8年1月～3月期

全産業

鹿児島県

2026年1月～3月期

	今期 (前年同期比)					来期 (対前年同期比来期見通し)				
	企業数	↗	→	↘	D I	企業数	↗	→	↘	D I
売上・完成工事・加工・収入額	208	22.6	42.3	35.1	-12.5	207	16.9	50.7	32.4	-15.5
売上(加工)単価・客単価	178	20.8	61.8	17.4	3.4	177	15.8	68.4	15.8	0.0
売上(加工)数量	41	22.0	46.3	31.7	-9.8	41	24.4	43.9	31.7	-7.3
客数	61	8.2	39.3	52.5	-44.3	61	6.6	50.8	42.6	-36.1
利用客数	76	15.8	52.6	31.6	-15.8	75	12.0	58.7	29.3	-17.3
資金繰り	206	7.3	73.8	18.9	-11.7	204	7.8	74.0	18.1	-10.3
輸出額	17	5.9	82.4	11.8	-5.9	18	5.6	83.3	11.1	-5.6
受注(新規契約工事)額	29	34.5	48.3	17.2	17.2	30	36.7	40.0	23.3	13.3
原材料・商品等仕入れ単価	206	75.2	21.8	2.9	72.3	205	62.9	32.2	4.9	58.0
原材料在庫数量	40	10.0	75.0	15.0	-5.0	40	5.0	80.0	15.0	-10.0
商品仕入数量	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
商品仕入額	61	42.6	29.5	27.9	14.8	61	41.0	31.1	27.9	13.1
商品・商品在庫数量	100	6.0	70.0	24.0	-18.0	100	8.0	73.0	19.0	-11.0
採算(経常利益)	207	7.7	57.5	34.8	-27.1	205	8.3	60.5	31.2	-22.9
従業員(含臨時・パート)	174	7.5	82.2	10.3	-2.9	174	4.6	73.0	6.9	-2.3
外部人材(請負・派遣)	104	4.8	88.5	6.7	-1.9	105	4.8	87.6	7.6	-2.9
設備操業率	40	10.0	70.0	20.0	-10.0	40	12.5	70.0	17.5	-5.0
引合	66	21.2	66.7	12.1	9.1					0.0
受注・契約残	67	6.0	70.1	23.9	-17.9					0.0
業況(自社)	207	12.6	58.5	29.0	-16.4	206	7.3	65.0	27.7	-20.4

	今期 (前期比)					来期 (対当期比見通し)				
	企業数	↗	→	↘	D I	企業数	↗	→	↘	D I
売上・完成工事・加工・収入額	208	19.7	38.5	41.8	-22.1					
売上(加工)単価・客単価	178	15.7	65.2	19.1	-3.4					
売上(加工)数量	41	17.1	46.3	36.6	-19.5					
客数	61	9.8	34.4	55.7	-45.9					
利用客数	76	9.2	57.9	32.9	-23.7					
資金繰り	206	5.8	75.2	18.9	-13.1					
業況(自社)	208	10.6	60.6	28.8	-18.3	208	9.1	67.8	23.1	-13.9
受取手形期間	41	0.0	87.8	12.2	-12.2	41	0.0	87.8	12.2	-12.2
長期資金借入難度	162	4.9	84.6	10.5	-5.6	162	4.9	85.8	9.3	-4.3
短期資金借入難度(含手形割引)	129	7.8	83.7	8.5	-0.8	129	7.8	84.5	7.8	0.0
借入金金利	160	27.5	71.9	0.6	26.9	160	26.3	73.8	0.0	26.3

	今期の水準				
	企業数	↗	→	↘	D I
業況(自社)	208	9.6	56.7	33.7	-24.0
生産に対する原材料在庫	41	2.4	90.2	7.3	-4.9
売上に対する製品在庫	102	5.9	86.3	7.8	-2.0
採算(経常利益)	207	18.4	59.4	22.2	-3.9
引き合い	69	14.5	73.9	11.6	2.9
生産設備	41	0.0	82.9	17.1	-17.1
従業員(含臨時・パート)	178	1.1	77.0	21.9	-20.8

上2表

- ↗ : 増加・上昇・好転・長期化・容易
- : 不変
- ↘ : 不足・低下・悪化・短期化・困難

左表

- ↗ : 良い・過剰・黒字・活発
- : ふつう・適正・収支トントン・ふつう
- ↘ : 悪い・不足・赤字・低調

産業別 過去3年間の業況DI(前年同期比)の推移
(2023年4～6月期～2026年1～3月期)

